

青字部分は「近代8」と重複

日本史授業プリント(70期)近代4 1 明治文化(1) 生活・宗教・思想

2年 組 番

西洋文化の流入(すべて復習:→近代8)

※1文明開化…西洋文物の移植 東京・横浜中心 旧習禁止→伝統的芸術・芸能価値の下落

生活 洋服(軍人・官吏から民間へ)、2散切頭の流行、3煉瓦造の家、4牛鍋の流行、
5石油ランプ、6ガス灯、7人力車、8鉄道馬車 など
旧暦(9太陰太陽暦)から10太陽暦への改暦…111872年12月3日→121873年1月1日
131日24時間制 14週7日制 15日曜休日など 16五節句(端午・七夕など)の廃止

※農漁村では旧暦を併用 <例>農耕、潮の干満、諸行事

※祝祭日の制定 <例>17紀元節…神武即位年(紀元前660年)を紀元とする

即位日(1/1)を太陽暦に換算→2/11

18天長節…天皇の誕生日(11/3)→大正以降は19明治節

明治の宗教(一部は復習:→近代8)

神道と仏教 政府は20神道国教化を目指す…王政復古政策の祭政一致 神祇官の設置

1868. 21神仏分離令…江戸時代まで22神仏習合(神と仏の融合)の否定

1870. 23大教宣布 ^{みことり}の詔 ^{はるみち}矢野玄道・^{ふくぼせい}福羽美静ら国学者の登用

→24廢仏毀釈の混乱、仏教界の反発 →断念…信教自由の保護を各宗派に通達[1875]

☆25国家神道の成立…国家による神社制度の整備・保護 布教活動をせず祭祀のみ

☆26教派神道 ^{おおもと}が分離して活動 <例>27大本教(1892. 出口なお開教 ^{おに}出口王仁三郎が教主)
28黒住教、29天理教など

☆仏教界に革新運動 <例>30島地黙雷(浄土真宗 欧州を視察)、井上円了、清沢満之、河口慧海

キリスト教 維新後も禁止 (31五榜の掲示) <例>浦上信徒弾圧事件(1867~73)…隠れキリシタン3400
→欧米から抗議→32キリシタン禁制の高札を撤去(1873) 人を流罪

宣教師来日 <例> 33へボン(米)…ローマ字(へボン式)を考案

→34ジェーンズ(米)…熊本洋学校教頭 生徒が「熊本バンド」結成
35内村鑑三、36新渡戸稲造、植村正久、浮田和民、海老名弾正ら

…… 37不敬事件(1891)…キリスト教徒として教育勅語に拝礼せず →第一高等中学校辞職

【センター正誤問題に挑戦】<1997B追試験、1991追試験より>

①民間宗教として生まれた天理教・金光教・黒住教は、明治政府によって復古神道として公認された。

②平民主義を唱えていた徳富蘆花は、日清戦争を機に国権論に転じた。

明治の思想史 38

啓蒙思想 の紹介から 39 国権論 (ナショナリズム)へ

..... 因習や迷信を否定し人間性の尊重を訴える18世紀の西洋思想

(1) 38 啓蒙思想の紹介 明治10年代まで(復習:→近代8)

I. 40 功利主義...41 イギリス中心 幸福や利益の追求を肯定 明治10年頃まで主流

<例> 42 福沢諭吉 [豊前中津藩]... 『43 西洋事情』(1866~70) 『44 学問のすゝめ』(1872~76) 『45 文明論之概略』(1875)等

46 中村正直 [幕臣]... 『47 西国立志篇』(1871 スマイルズ(英)『自助論』の翻訳)

『48 自由之理』(1872 J・S・ミル(英)『自由論』の翻訳)等

☆ 49 明六社...1873年結成 啓蒙思想団体 『50 明六雑誌』を發行 演説会など

51 森有礼 [薩摩]...社長。のち第1次伊藤内閣の文部大臣。

にしあまね 52 西 周 [津和野]...西洋哲学を紹介 『万国公法』(国際法)を翻訳

津田真道[津山]、西村茂樹[佐倉]、42 福沢諭吉、46 中村正直、53 加藤弘之等

II. 54 天賦人權論...55 フランス中心 人間は生まれながらにして平等 明治10年代に主流

<例> 56 中江兆民 [土佐]... 『57 民約訳解』(1882 ルソー(仏)の『民約論』の翻訳)など

58 植木枝盛 [土佐]... 『59 民権自由論』(1879 民衆向け)

III. 60 社会進化論...社会の進化や優勝劣敗を強調 天賦人權論と対立

<例> 53 加藤弘之 [出石]...天賦人權論(『真政大意』1870)から社会進化論(『54 人権新説』1882)へ

(2) 39 国権論...国家の独立維持や対外膨張(=国権)を重視 ナショナリズム 明治20年代以降

背景 { 条約改正の難航...不平等条約への反発 政府の欧化主義政策(鹿鳴館外交など)への反発
対外的緊張...朝鮮問題(甲申事変など)・日清戦争

(I a) 55 平民主義 ...雑誌『56 国民之友』(57 民友社 1887~)



政府の欧化主義を貴族的として批判 生活の向上など 58 平民的欧化主義を主張

59 徳富蘇峰、竹越与三郎、山路愛山ら

(I b) 60 国粹主義 (国粹保存主義)...雑誌『61 日本人』(62 政教社 1888~)

欧米文化の模倣を批判 日本古来の伝統や文化を強調(63 近代的民族主義)

64 三宅雪嶺、志賀重昂(『日本風景論』)、杉浦重剛、井上円了(僧侶)

65 国民主義 ...新聞『66 日本』(日本新聞社1889.2.11.~) 中心は、67 陸羯南

表面的な欧化政策に反対 国家の独立や国民的統一を重視 三宅雪嶺、正岡子規ら

日清戦争 → 55 徳富蘇峰も対外膨張論へ変化

(II) 68 日本主義 ...雑誌『70 太陽』(1895~) 69 高山樗牛 (小説『滝口入道』)

欧米文化(特にキリスト教)の排撃 天皇制を中核 ほかに井上哲治郎ら

日露戦争 → 個人主義的傾向が強まる → 70 戊申証書 (1908)...政府は勤労と儉約を強調